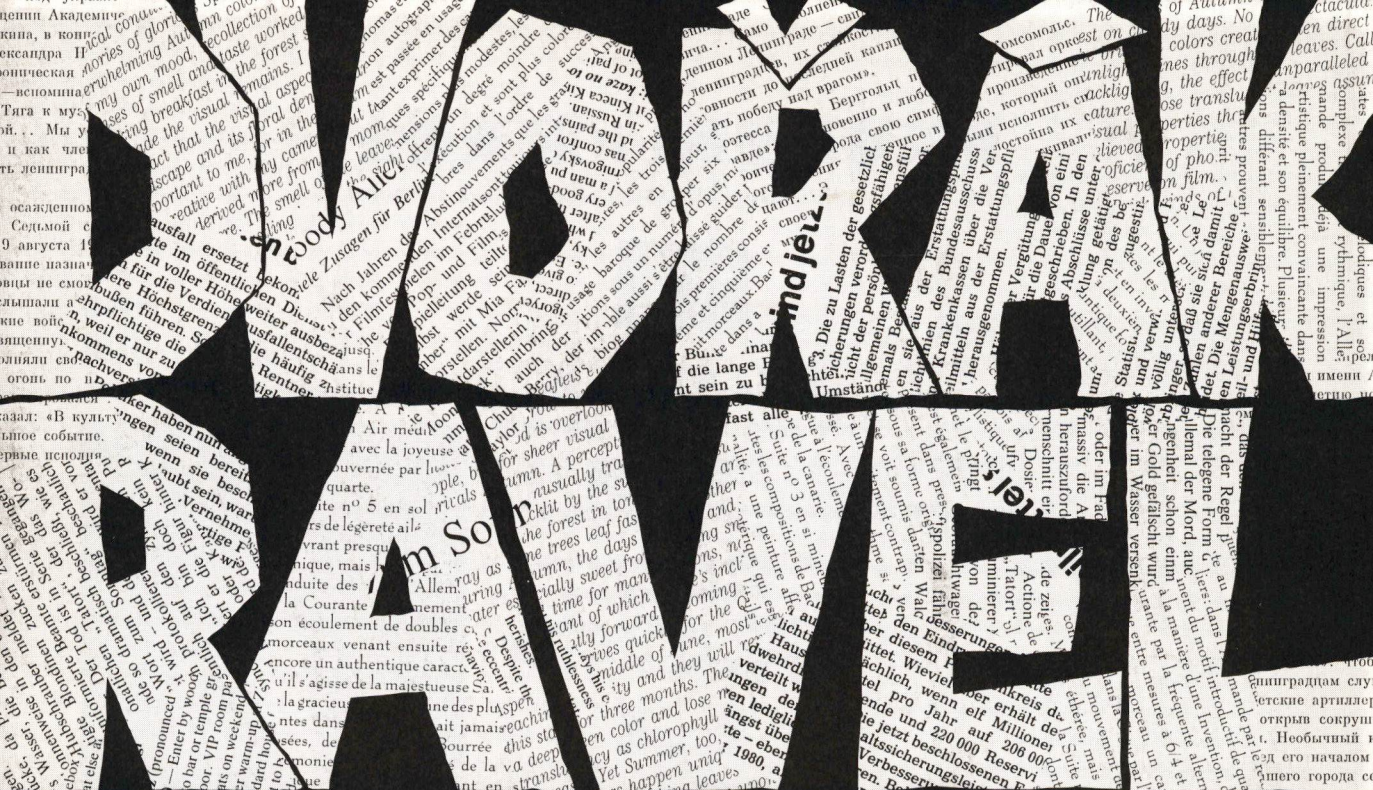




アマチエオ・オストラ

新交響楽団第140回演奏会

The New Symphony Orchestra the 140th Concert

ドヴォルザーク ラヴェル

Antonín DVOŘÁK (1841-1904)

Maurice RAVEL (1875-1937)

交響曲第8番ト長調 作品88

Symphony No. 8 G-major Op. 88, 1889

バレ音楽「マ・メール・ロワ」(全曲版)

Ma mère l'oye (Mother goose), 1911

ラ・ヴァルス——舞踊詩

La valse—Poème chorégraphique, 1920

指揮: 原田 幸一郎
HARADA Koichiro, conductor

1993年7月10日(土)東京芸術劇場 6:30p.m.開演

Saturday, July 10, 1993 at Tokyo Geijutsu Gekijo (Ikebukuro sta. west exit)

アマチュアオーケストラ

新交響楽団第140回演奏会

The New Symphony Orchestra The 140th Concert



指揮：原田幸一郎

HARADA Koichiro, conductor

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 作品88

Antonin DVOŘÁK (1841-1904) : Symphony No.8 Op.88, 1889

第1楽章 *Allegro con brio*

第2楽章 *Adagio*

第3楽章 *Allegretto grazioso*

第4楽章 *Allegro ma non troppo*

——— 休 憩 ———
intermission

ラヴェル：バレエ音楽「マ・メール・ロワ」(全曲版)

Maurice RAVEL (1875-1937) : Ma Mère l'Oye (Mother Goose), 1911

前奏曲 *Prélude*

紡ぎ車の踊りと情景 *1^{er} Tableau : Danse du Rouet et Scène*

眼りの森の美女のバヴァース *2^e Tableau : Pavane de la Belle au bois dormant*

美女と野獣の対話 *3^e Tableau : Les entretiens de la Belle et de la Bête*

一寸法師 *4^e Tableau : Petit Poucet*

パゴダの女王レドロネット *5^e Tableau : Laideronnette, Imperatrice des Pagodes.*

終曲・妖精の園 *Apothéose : Le jardin féérique*

ラヴェル：ラ・ヴァルス — 舞踊詩

Maurice RAVEL : La Valse — Poème Chorégraphique, 1920

1993年7月10日(土) 6:30p.m. 東京芸術劇場

Saturday, July 10, 1993 at Tokyo Geijutsu Gekijo

主催：新交響楽団

今後の演奏会予定

●ベルリン芸術週間参加演奏旅行

1993年9月7日(火) ベルリン・フィルハーモニー 20:00

指揮：石井眞木

曲目：藤田正典／オーケストラのための「輪廻」(新交響楽団委嘱新作)

伊福部昭／マリンバとオーケストラのための「ラウダ・コンチェルタータ」(独奏：安倍圭子)

石井眞木／交響三連作「浮游する風」

(打楽器独奏：山口恭範、ベルリン・パーカッション・アンサンブル)

●第141回演奏会《ベルリン芸術週間帰国記念演奏会》

1993年10月10日(日) 東京芸術劇場 14:00

指揮：石井眞木

曲目：藤田正典／同上、伊福部昭／同上

チャイコフスキー／交響曲第5番

●第142回演奏会

1994年1月29日(土) 東京芸術劇場 18:30

指揮：小泉和裕 曲目：未定

●第143回演奏会

1994年4月9日(土) 東京文化会館 18:30

指揮：原田幸一郎 曲目：未定

●第144回演奏会

1994年7月23日(土) 東京文化会館 18:30

指揮：小林研一郎 曲目：未定

●第145回演奏会

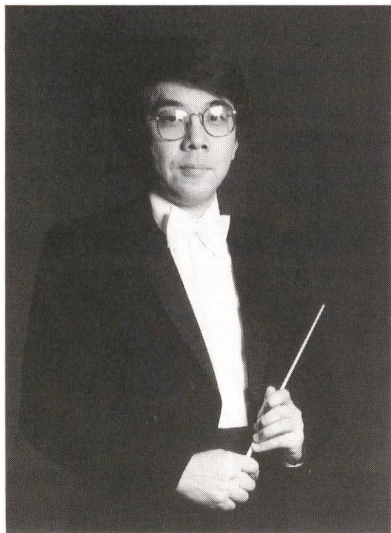
1994年10月10日(月・祝) 東京芸術劇場 14:00

指揮・曲目：未定

●指揮

原田 幸一郎

HARADA Koichiro, conductor



1945年生まれ。桐朋学園とジュリアード音楽院で斎藤秀雄、秋山和慶、ドロシー・ディレイ、イヴァン・ガラミアン氏らにヴァイオリンと室内楽および指揮法を学ぶ。69年から12年間、東京クワルテットの第1ヴァイオリンをつとめ、世界の檜舞台で常に高い評価を受けてきた。81年に東京クワルテットを離れ、クリーヴランド音楽院のヴァイオリン科主任教授とイエール大学、アスペン音楽祭でも教鞭をとりつつ、室内楽奏者として、ニューヨークのリンカーン・センターやワシントンD.C.等のコンサートで広く活躍した。

83年からは日本に居を移し、ソリストおよび室内楽奏者として内外で活躍。さらに86年には数住岸子と“NADA”（ナード）室内楽シリーズをスタート、従来にない高度なアンサンブルを誇っている。

88年4月、九州交響楽団の〈モーツァルト定期〉で指揮デビューを飾り、翌月の新日本フィル〈ハイドン定期〉の東京デビューも好評を博した。90年には新日本フィル定期デビュー、東京フィル〈モーツァルト定期〉、〈倉敷音楽祭祝祭管弦楽団〉等を指揮。以来、新日本フィル〈モーツァルト定期〉、札幌交響楽団定期等を指揮し、室内楽を究めた音楽家ならではの名演を聴かせている。94年には5月に札幌定期、6月に京都市響定期の指揮がそれぞれ決まっている。室内楽奏者として長年にわたって培われた、豊かで暖かな音楽性とアンサンブルでの明敏で細やかな感受性は、他の指揮者と一線を画するところである。

新交響楽団とは89年以来毎年共演しており、今回が5回目となる。

《祝ベルリン芸術週間参加》

井 上 圭 子 オ ル ガ ン パ フ ォ ー マ ン ス

夏の夜のファンタジー'93

パイプオルガンで映画音楽に初挑戦

オルガン 井上 圭子

打楽器 上野 信一とPHONIX-Réflexion

《第1部》

バッハ：「トッカータとフーガ」

ヴィドール「オルガン交響曲第5番」より第1楽章/他

《第2部》

映画音楽特集

2001年宇宙の旅（R. シュトラウス「ツァラトゥストラはかく語りき」）/スター・ウォーズ（J. ウィリアムズ）
タラのテーマ（M. スタイナー「風と共に去りぬ」より）/愛と哀しみのボレロ（M. ラヴェル「ボレロ」）/他

1993年8月5日(木) サントリーホール7時開演

S¥4,500 A¥3,500 B¥2,500 C¥2,000 ペア券(2名様)¥8,500 ファミリー券(4名様)¥17,000

お問い合わせ・お申込み：コンサートサービス03(3263)3858

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 作品88

Antonin DVOŘÁK : Symphony No.8 Op.88

チェコ首都プラハは大変美しい町だ。あまり戦災に遭っていないので、中世以来の古い町並みがそっくり残っていて、歩いて歩いて見飽きない。特に夕方のブルタヴァ（モルダウ）川から見上げるフラツチャニー（プラハ城）は、涙が出るほどすばらしい。夏の夕方、旧市庁舎の塔の上で金管アンサンブルの演奏が行われるが、「百塔の町」プラハの塔や屋根の上にトランペットの音が響き渡ると、思わず今夜演奏する交響曲第8番の4楽章を思い出してしまった。

チェコといえば、ビールも最高だ。ピルスナービールの本家だけあって濃いエキス分といい、きめ細かな泡といい、なるほどこれに慣れるとアメリカのビールなんてただの炭酸飲料だ。ドヴォルザークがさっさと帰国したのも当たり前だ。

もちろん、これは私の勝手な想像だが、ドヴォルザークが祖国をこよなく愛していたことはまちがいない。当時の公用語だったドイツ語はちっとも身につかず、チェコ語のオペラを書くことに意欲を燃やしていたし、ブラームスに再三ウィーンに誘われたのにもかかわらず、チェコを離れなかったことからわかる。

とりわけ彼はボヘミアの美しい自然を愛していたようだ。1885年にプラハ郊外のヴィソカ（「高い」という意）に別荘を建て、冬以外のほとんどをここで過ごしていたが、ここも森や田園に囲まれた静かで美しい場所である。ドヴォルザーク

はこの別荘が大変気に入っていて、50歳の誕生日を国中が祝っている時も無頓着で、ここで家族と楽しんでいた。交響曲第8番は、この別荘で1889年の夏から秋にかけて一気に書き上げられた。彼の作品中最もチェコ的で、澄んだ美しさを持ち、「自然交響曲」とも呼ばれているが、彼の祖国や自然への愛情、生涯鉄道に夢中だった純真な魂がよく現われているのではないだろうか。

第1楽章では厳肅なコラル風の導入主題が展開部の前にも効果的に使われ、楽しい主要主題に添えられている副主題は展開されない。

第2楽章はボヘミアの美しい風景と村祭などのひなびた感じが出ている。

第3楽章はチェコの気分にあふれ、中間部はオペラ「かんこ者たち」のなかの「それで若い娘は」の旋律が使われている。

第4楽章は民族的な基本主題によって展開部を巧みな変奏技法で構成している。

（フルート 岡田 充子）

初演：1890年、プラハ

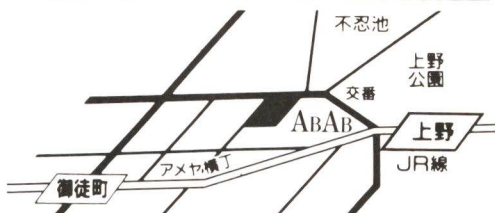
楽器編成：フルート2（2番ピッコロ持替）、オーボエ2（コールアングレ持替）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦5部

オシャレまるごと。

ファッションメディア
スペース

ABAB
上野店

110 東京都台東区上野4-8-4 TEL 03-833-3111 / 夜8時まで営業



ラヴェル：バレエ音楽「マ・メール・ロワ」(全曲版)

Maurice RAVEL : Ma Mère l'Oye (Mother Goose)

幼い頃の話。童話を手にすると、まずはその幻想的な扉絵に興奮したものだった。自分のまわりとは似ても似つかぬその世界を飽くことなく眺め、しばし幸せな気分

にひたる。そうして扉を開くと、もうその住人——全く、童話には不思議な魅力があるようだ。

童話の世界に遊んでいる間、自然そのバックには音楽が流れている。あるときには剽軽者にファゴットであったり、迫りくる危険にティンパニのロールであったり、また安堵感に満たされた気持ちに弦楽合奏であったりする。「マ・メール・ロワ」は、そんな童話の魅力を思い起こさせてくれる作品だ。

もともと、この曲は1910年にラヴェルが友人ゴデヴスキー夫妻の子供たちのために書いたピアノ連弾曲であった。それを、1911年にオーケストラのために編曲したものである。題名の「マ・メール・ロワ」は、〈マザー・グース〉の意のフランス語で、ペロー、ドーノワ夫人、ボーモン夫人らの童話を素材としている。

今回演奏するのは、そのオーケストレーションをした曲に“前奏曲”と“^{つむ}紡ぎ車の踊りと情景”、そして4曲の“間奏曲”を加えてバレエ作品として公表したものである。冒頭の“前奏曲”などは、まさに幻想的な扉絵そのもの。聴く人の心を夢の世界へと誘うかのようなものである。

曲は、全曲への導入と雰囲気づくりのための“前奏曲”と、原曲の第1曲への前提となる“紡ぎ車の踊りと情景”に始まり、各曲と、その間をつなぐ間奏曲とからなるが、原曲とは順序が少し異なってい

る。()内が原曲の順序。

眠りの森の美女のパヴァーヌ (第1曲)

ペローの〈眠りの森の美女〉による。ゆっくりとしたパヴァーヌ。

美女と野獣の対話 (第4曲)

ボーモン夫人による。野獣(コントラファゴット)に姿を変えられた王子様が、生命がけて美女(クラリネット)に求婚し、それが受け入れられると元の美しい姿にもどる。

一寸法師 (第2曲)

ペローによる。森の中で道に迷わないようにまたパンが鳩に食べられてしまうというお話。

パゴダの女王レドロネット (第3曲)

ドーノア夫人の〈緑色の小さな蛇〉にもとづく。中国の陶器人形パゴダの女王様がお風呂に入ると、他の人形たちはクルミやアーモンドの殻でできた楽器をもって歌いだす(ピッコロ、フルート、木琴)。

終曲・妖精の園 (第5曲)

再びペローによるもので、第1曲で扱われた話の後半が描かれる。グリッサンドをちりばめた華やかな終曲。
(フルート 兼子 尚美)

初演：1912年1月28日、パリ

楽器編成：フルート2(2番ピッコロ持替)、オーボエ2(2番コールアングレ持替)、クラリネット2、ファゴット2(2番コントラファゴット持替)、ホルン2、ティンパニ、トライアングル、シンバル、大太鼓、小太鼓、タムタム、木琴、ジュータンブル(鍵盤付き鉄琴)、チェレスタ、ハーブ、弦5部

《祝・ベルリン芸術週間参加》

音楽関係ならおまかせください

日新写植

写植全般・版下・トレス・デザイン・印刷

株式会社日新写植

〒101 東京都千代田区西神田 2-8-9 林リースビル2F

☎03(3234)9832 FAX03(3234)9834

ラヴェル：ラ・ヴァルス — 舞踊詩

Maurice RAVEL : La Valse — Poème Chorégraphique

夢か、いや現実か。雲がかかってよく見えない、しかも薄暗く、何が始まっているのか分からない。次第に明るむ。音楽が聞こえてき、人影がちらつく。何故か自分も一緒に踊っている。現実なのだろうか。

ラヴェルの音楽にはしばしば懐古主義的なものが見られ、「古風なメヌエット」、「クープランの墓」の他に、特にワルツに思い入れがあった。それは初期の作品「優雅で感傷的なワルツ」にも現われているが、曲のスケールの大きさでは「ラ・ヴァルス」の足元にも及ばない。

時は1855年、舞台はウィーン、ハプスブルク家の宮廷。華やかなワルツは盛り上がり、終わってはまた新しいワルツが始まり、華麗な舞踏会は続く。いつの間にか自分の住んでいる場所も時代も忘れ、ソロをとり有頂天になっている。

1895年に初めてスクリーンに写し出された映画は、この曲が作られた1920年には一大産業に成長した。その影響は曲の全編を通して明らかで、クローズアップ、カットバック、フラッシュバックなど映画の手法が用いられており、舞踏音楽的と言うより、映画音楽的、いや映画のと言った方が良いかも知れない。当時としてはかなり大胆な試みであったが、「オーケストレーションの魔術師」ラヴェルは見事な作品に仕上げている。

ワルツは異様に興奮していく。目まぐるしい曲の移り変わり、テンポの変化。自分がついていけない事に気付く。周りの人間から隔離されていくのが分かる。ひどい耳鳴り。目がまわる。早く悪い夢から醒めたい。

ラヴェルはそれまで使われなかった楽器の奏法、想像力豊かで巧みな編曲でオーケストラの可能性を高めた。例えば曲の終わりの方で3拍子の1拍目から2拍目にかけての *pp* から *ff* への変化、グリッサンド、小節毎に変わる曲想、アッチェレランド。1960年代の前衛音楽家なら

逆回転などのテープ操作、変調機、変速機の使用で処理したであろう。ラヴェルはそれらをすべて伝統的なオーケストラの中で消化しており、それだけに各奏者に強いものは多い。

ワルツの響きはいつしか猛獣の呻きに変わり、脅迫するようなアッチェレランドを続け、破滅へ向かって行く。突然5つの音で幕を閉じる。夢は終わった。

はたしてただ単に夢から覚めただけなのだろうか。第一次世界大戦後の混乱、急速な機械文明化による生活の変化は繊細なラヴェルの作品にも影を落としており、この曲は彼にしては珍しく暗い。それも、ショスタコーヴィチの暗さとは異質のものである。ショスタコーヴィチは暗い世界を淡々と描いているが、その中で、体制に従うふりをしながらその悪を告発するしたたかさを感じさせ、交響曲10番の終わりでは開き直りとも思われる明るさを見せており、確実に立ち向かう逞しさが伺われる。それに対し、古き良き時代のワルツに酔いしれていたラヴェルは苛酷な現実に戻されると同時に一つの世界が終わった事を知らされ、ますます悲観的になっては、また夢を見る。他の作品の美しさや幻想性も、結局、彼の現実逃避的傾向の現われではないか、そう考えると、「ラ・ヴァルス」はこの世で一番暗いワルツではないだろうか。

(ヴィオラ 畑 修一)

初演：1920年12月12日、パリ

楽器編成：フルート3（3番ピッコロ持替）、オーボエ2、コーラングレ、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、トライアングル、タンブリン、小太鼓、シンバル、大太鼓、カステネット、タムタム、ジュータンブル（鍵盤付き鉄琴）、クロタル（アンティックシンバル）、ハーブ2、弦5部

団員募集！

新交響楽団は会社員、教員、学生、主婦などなど、さまざまな職業・年齢にわたる団員で自主運営されているアマチュアオーケストラです。音楽監督の故芥川也寸志氏が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、あなたの力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。いつでも歓迎です。団費：入団費3,000円、団費月額4,000円。練習は毎週土曜午後6～9時、東京文化会館他にて。

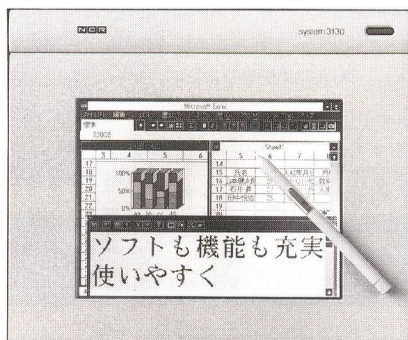
なお、新響では次のパートの奏者を重点的に募集しております。入団に際してはオーディションがあります。詳細は下記斎藤までお問い合わせ下さい。

- ・重点募集パート……ヴィオラ、チェロ、コントラバス、オーボエ、トランペット
- ・オーディション……1993年7月17日(土)午後 東十条にて
- ・連絡先……斎藤茂樹 ☎043(287)3388

NCR

An AT&T Company

「一太郎」や「花子」、「EXCEL」などソフトも充実。
仕事の現場で素早く使えるペン・コンピューター。



Pen Computer
NCR3130

日本エヌシー・アール株式会社

東京都港区赤坂1-2-2 〒107 TEL03-3582-6111

話が速い。

ペンなら

早い話が、



《祝ベルリン芸術週間参加》

——デザイン・印刷・製本から発送まで——

印刷のことなら

**三映印刷株式会社**

本社・工場 〒176 東京都練馬区貫井 4-1-7

☎03(3999)1156~9 FAX03(3999)1935

営業所 〒104 東京都中央区銀座1-18-2 タツビル6F

☎03(3562)3691 FAX03(3567)8035

またひとつ美しい音、カメラータから。

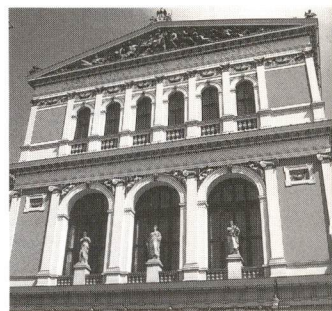
私たちはウィーンの音楽をこよなく愛し、レコードをつくり続けています。

——〈カメラータ〉のウィーン録音について——

1981年4月、ウィーン弦楽四重奏団によるシューベルト「死と乙女」のデジタル・レコーディングではじまった、〈カメラータ〉のウィーン録音。このLPが昭和57年度レコード・アカデミー賞「室内楽部門」に輝いてから今日まで10年あまりの時を経て、〈カメラータ〉は、80年代から90年代のウィーンの室内楽を録り続けて来ました。それは、かつて1950年代に〈ウェストミンスター〉レコードが成し遂げた仕事を、いまCD時代に私たちが引き継ぐもの、と自負しています。さらにリンツでは、われわれスタッフがウィーンにある自社の録音機材を持ち込み、リンツ・ブルックナー管弦楽団によるブルックナーの交響曲全集を、他人の力を借りずに、文字どおり手づくりで納得の行くまで丁寧に収録することができる、そんなところまで来ています。

ウィーンの音楽家たちとのコラボレーションになる〈カメラータ〉のウィーン録音、どうかご注目ください。

プロデューサー(井阪 紘)



世界が注目する〈カメラータ〉のウィーン録音



シューベルト
弦楽四重奏曲全集
第1番～第15番、ロンド
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 30CM-30～35(6枚組)
¥16,913(税込)



シューベルト:「死と乙女」
ハイドン:「皇帝」
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 20CM-150
¥2,060(税込)



モーツァルト
弦楽五重奏曲全集(II)
第3番K515&第5番K593
ウィーン弦楽五重奏団
[CD] 32CM-245
¥3,008(税込)



モーツァルト:後期10大
弦楽四重奏曲全集
第14番～第23番
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 25CM-151～155
(5枚組)
¥12,875(税込)



ブラームス
弦楽六重奏曲第1番
ウィーン弦楽六重奏団
[CD] 32CM-93
¥3,008(税込)



「ウィーン情緒」
J.シュトラウスI世、ランナーほか
ウィーン・ピーダーマイヤー・
ソリスト
[CD] 32CM-210
¥3,008(税込)



ドヴォルザーク:アメリカ
弦楽四重奏曲第12番&第10番
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 32CM-250
¥3,008(税込)



ウィーンわが夢のまち
オペレッタからミュージカルまで
メラニー・ホリデイ
[CD] 20CM-100
¥2,060(税込)



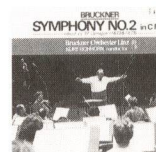
ブルックナー:交響曲第7番
(ノヴァーク版)
クルト・アイヒホルン指揮
リンツ・ブルックナー管弦楽団
[CD] 32CM-165
¥3,008(税込)



ツェムリンスキー第1, ベルク
op.3 & ウェーベルn op.5
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 30CM-99
¥3,008(税込)



「メリー・ウイドウ」
レハール:オペレッタ名曲集
メラニー・ホリデイ
[CD] 20CM-160
¥2,060(税込)



ブルックナー:交響曲第2番
(1872&1873年稿)
クルト・アイヒホルン指揮
リンツ・ブルックナー管弦楽団
[CD] 30CM-195～196(2枚組)
¥5,634(税込)
〈世界初録音〉



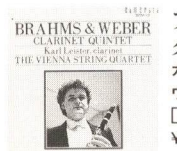
モーツァルト
クラリネット五重奏曲
カール・ライスター(クラリネット)
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 32CM-94
¥3,008(税込)



「こうもり」
J.シュトラウス
オペレッタ・ハイライツ
メラニー・ホリデイ
[CD] 20CM-260
¥2,060(税込)



ブルックナー:交響曲第8番
(ノヴァーク1890年版)
クルト・アイヒホルン指揮
リンツ・ブルックナー管弦楽団
[CD] 32CM-225
¥3,008(税込)



ブラームス&ウェーバー
クラリネット五重奏曲
カール・ライスター(クラリネット)
ウィーン弦楽四重奏団
[CD] 32CM-113
¥3,008(税込)



モーツァルト
ピアノ三重奏曲全集
ウィーン・ベートヴェン・トリオ
[CD] 30CM-171～172(2枚組)
¥5,634(税込)



ブルックナー:交響曲第9番
(新発表終楽章つき)
クルト・アイヒホルン指揮
リンツ・ブルックナー管弦楽団
[CD] 30CM-275～276(2枚組)
¥5,634(税込)
★8/21発売

camera
カメラータ・トウキョウ

〒150 東京都渋谷区神宮前 5-50-6 青山テネックス 8F ☎03-3498-5890 FAX. 03-3498-6239

ベルリン芸術週間参加のための寄付のお願い

新交響楽団は9月7日にベルリン芸術週間に日本のオーケストラとして初めて参加いたします。石井眞木の指揮のもと、同氏作曲の「浮游する風（独奏：山口恭範）」、伊福部昭の「マリimbaとオーケストラのためのラウダ・コンチェルトータ（独奏：安倍圭子）」、そして藤田正典の委嘱新作「オーケストラのためのく輪廻」という全曲邦人プログラムを演奏します。これは今年の芸術週間のテーマ「日本」をふまえたものです。

歴史的な経緯からヨーロッパで最も「前衛的」な都市のひとつであるベルリンで日本を代表する現代音楽の一端をアマチュアオーケストラの新交響楽団が紹介することは大きな意義を持つものと自負しております。

演奏旅行の予算総額は約6,900万円（団員旅費滞在費・楽器運搬借用料・指揮者および独奏者謝礼他）で、このうち芸術週間事務局が約200万円負担、団員の個人負担を約4,000万円として、残りの約2,900万円を公的・民間の基金や助成に負う計画ですが、昨今の景気低迷はこの分野への支出をまず直撃しており、資金の調達は厳しい状況です。

ここで入場料をお支払いいただいた聴衆の皆様に対して誠に勝手なお願いではありますが、この厳しい状況をご賢察の上、ご寄付をいただければ幸いに存じます。なお、ご寄付をいただける場合は、下記銀行口座および郵便振替口座（裏面通信欄には「ベルリン演奏旅行」とご記入ください）にお振込いただきますよう、お願い申し上げます。

郵便振替口座	東京9-713 076	新交響楽団
さくら銀行八千代支店	普通632 8699	新交響楽団 代表 落合宏
第一勧業銀行八千代支店	普通151 6741	新交響楽団 代表 落合宏
富士銀行赤坂支店	普通157 5937	新交響楽団 代表 落合宏
三菱銀行八千代支店	普通056 8652	新交響楽団 代表 落合宏
住友銀行八千代支店	普通 792 067	新交響楽団 代表 落合宏

なお、ご寄付をいただきました方のお名前（前回139回演奏会でのご寄付も含む）は次回第141回・帰国記念演奏会のプログラム誌上にて掲載させていただきます。

1993年7月10日 新交響楽団



みんなで、カザルスホールへ行こう。 カザルスホール 第7回アマチュア室内楽フェスティバル出演者募集!

●応募締切: 1993年9月30日(木)
当日消印有効

日	第1日: 1994年2月19日(土) 17時開演	第2日: 1994年2月20日(日) 14時開演
時	第3日: 1994年2月26日(土) 17時開演	第4日: 1994年2月27日(日) 14時開演

●応募資格: 1. アマチュアとして室内楽を楽しんでおられる方々。(音楽高校/音楽大学に在学中の方は、応募をご遠慮いただいております。) 2. 二重奏から指揮者なしの室内アンサンブルまでのグループ。*詳細は応募要項をご覧ください。

●応募要項請求・問い合わせ先: 〒107 東京都港区赤坂3-13-14 赤坂石田ビル テレビマンユニオン音楽事業部内「ACF事務局」TEL. 03-3585-1031 FAX. 03-3585-1033

担当: 山本、萩原(電話・ハガキまたはファックスでご請求ください。7月初めから発送いたします。)

●発表: 1993年11月中旬 主催: カザルスホール 後援: 主婦の友社 企画制作: アウフタクト 制作: テレビマンユニオン

カザルスホール

いい歌がなければ、
いい歌はうたえない。



好きな歌をいくつ持っていますか。

涙のかわりにうたったり、笑うかわりにうたったり。

選んだわけでもないのに、そんな歌が、私たちにはあります。

うたえる歌を持つ私たちは、とても幸福なんだと思います。

作詞家、作曲家の著作権を守ること

それは、私たちの音楽への感謝の気持ちです。

JASRAC
日本音楽著作権協会
理事長 石本 美由起

〒105 東京都港区西新橋1-7-13
☎(03) 3502-6551

T H A N K S F O R M U S I C